

第71回GISTセミナー

「科学技術に関連する大災害発生時の対応と国際協力に関する課題 —福島第一原子力発電所の経験を踏まえて」

講演者：Charles A. Casto博士

元米国原子力規制委員会（NRC）シニア・アドミニストレーター、カストグループ
コンサルティング会長、安全／危機管理リーダーシップ・コンサルタント

コメンテーター：根井 寿規 政策研究大学院大学教授

ファシリテーター：越智 小枝 相馬中央病院内科診療科長

- ◆ 日時 2016年3月14日(月)17:00～19:00
- ◆ 場所 政策研究大学院大学1階 会議室1AB
(アクセス：<http://www.grips.ac.jp/about/access/>)
- ◆ 主催 政策研究大学院大学科学技術イノベーション政策(GIST)プログラム
- ◆ 言語 日本語・英語(同時通訳あり)
- ◆ 概要

科学技術の発展は社会が抱える課題を解決する一方、時に、他国の支援・協力を要するような大災害を引き起こす。福島第一原子力発電所事故はその一例とも言えるが、事故への対応や国際支援受け入れ態勢について課題が残ったのも事実である。東日本大震災から5年が経過した今、福島第一原子力発電所事故の対応に関わった日米の関係者を交え、大災害につながり得る科学技術として何があるのか、災害対応の充実に向けて関係者(政府、科学者、規制者、産業、メディア、市民等)が平時からできることは何か、他国からの支援・協力受入れに関し国際的プロトコルは必要なのか等について、原発事故の経験を踏まえた講演・意見交換を行う。

◆ プログラム

- 17:00～17:05 趣旨説明・講師紹介
- 17:05～17:50 Charles A. Casto 博士による講演
- 17:50～18:00 根井教授からのコメント
- 18:00～19:00 パネル討論・質疑応答
パネリスト: Casto 博士、根井教授、ファシリテーター: 越智医師

◆ 登録申し込み

参加ご希望の方は、3月14日(月)正午までに登録フォーム(<https://krs.bz/scirex/m?f=62>)からお申込みください。登録フォームにアクセス出来ない場合は、次の内容を明記の上、gist-ml@grips.ac.jp宛てにメールにてお申し込みください。

1. お名前、2. ふりがな、3. ご所属、4. お役職、5. ご連絡先(E-mail)

◆ 講師・コメンテーター・ファシリテーター略歴

Charles A. Casto

チャールズ・カスト博士は原子力分野、米空軍で計38年間、規制、技術、運営などの職務実績を経験した。

米国の三カ所の商業用原子炉で、上級原子炉運転指導員を務めた。規制者としては、核燃料、核物質の施設、運転、廃炉などを監督した。米国政府の上級幹部職の一員でもあり、退職直前は米原子力規制委員会(NRC)の「地域Ⅲ」の上級行政官として、管轄する8州の原発23カ所を監督した。また、NRCで副地域行政官(原子力発電所建設監査担当)を務めたり、ハリー・リード上院議員の立法補佐官(コングレッショナル・フェロー)としてエネルギー政策の策定を担当したりするなど、様々な経験を積んでいる。

2011年の福島第一原子力発電所事故では、米国政府とNRCの合同チームの主幹として来日。ルース駐日米国大使(当時)とともに米国のNRC緊急対策センターとのコーディネーション業務を行い、事態打開に尽力した。日本の原子力規制の立て直し、原発の再稼働や閉鎖に関する判断基準などについても助言。その卓逸した専門知識は海外からも頼りにされ、ハンガリーやスロベニアも支援した経験がある。

こうした功績が称えられ、2012年にはオバマ大統領から『Presidential Distinguished Award』勲章を授与された。

<学歴・資格>

経営学博士: ケネソー州立大学(米国ジョージア州)

行政学修士: ジョージア州立大学(アセンズ)

理学士(原子力): ニューヨーク州立大学(アルバニー)

インストラクター資格: 原子力発電運転協会、NRC リアクター・オペレーター・ライセンス及びシニア・リアクター・オペレーター・インストラクター資格



根井寿規

1981年 東京大学理学部(地質学専攻)卒、通商産業省入省。資源エネルギー庁総務課長補佐、大臣官房総務課長補佐などを経て、JETROヒューストンセンター次長。経済産業省中東アフリカ室長、資源エネルギー庁石油精製備蓄課長、イラク暫定統治機構(CPA)派遣、貿易経済協力局技術協力課長、原子力安全・保安院原子力発電検査課長を経て、2008年東北経済産業局長。2010年原子力安全・保安院審議官(核燃料サイクル担当)2011年内閣審議官(原子力事故収束担当)、2012年 石油天然ガス・金属鉱物資源機構理事の後、2014年6月から政策研究大学院大学教授(現在に至る)。



越智小枝

1999年東京医科歯科大学医学部卒業。東京下町の都立墨東病院での臨床経験を通じて公衆衛生に興味を持ち、2011年10月よりインペリアルカレッジ・ロンドン公衆衛生大学院に進学。合格通知のわずか10日後に3.11が起きたことをきっかけに災害公衆衛生に興味を持ち、相馬市の仮設健診などの活動を手伝いつつ留学先で研修を積んだ後、2013年11月より相馬中央病院勤務。剣道6段。

<免許・資格>

医師、公衆衛生修士、日本内科学会認定医、日本リウマチ学会専門医、

日本リウマチ学会評議員、日本体育協会認定スポーツ医、全日本剣道連盟認定帯同医

